

参加学生の声: 今井 佑理花さん(東北大学)

災害看護について  
多くの知識が得られた!



実践を通じて、災害看護をより深く学べた!

災害時の対応について、理論的な知識を学ぶだけでなく、具体的な演習や実例を通じて学ぶことができました。実際に災害が起きた時、さまざまな状況が想定される中でどのように対応すべきか、より深く考えられるようになりました。この半年間の研修は、全国各地の看護学生と協力して、国内外の災害看護の知識を深められる、とても貴重な経験だったと感じています。実践的なスキルを身につけたい方や視野を広げながら学びたい方にオススメです。

WEBで参加者の生の声を公開

参加者がプログラムでの学びや気付きを記録するブログを更新しています。ここでは紹介しきれなかった内容も掲載しているので、ぜひ一度ご覧ください。

下記URLまたは右記QRコードからアクセス!  
TOMODACHI J&J Disaster Nursing Training Program  
<https://tjdnt2015.wordpress.com/>



お世話になった方

兵庫県立大学 地域ケア開発研究所 所長 増野園恵先生

協賛

ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ

@tomodachijj

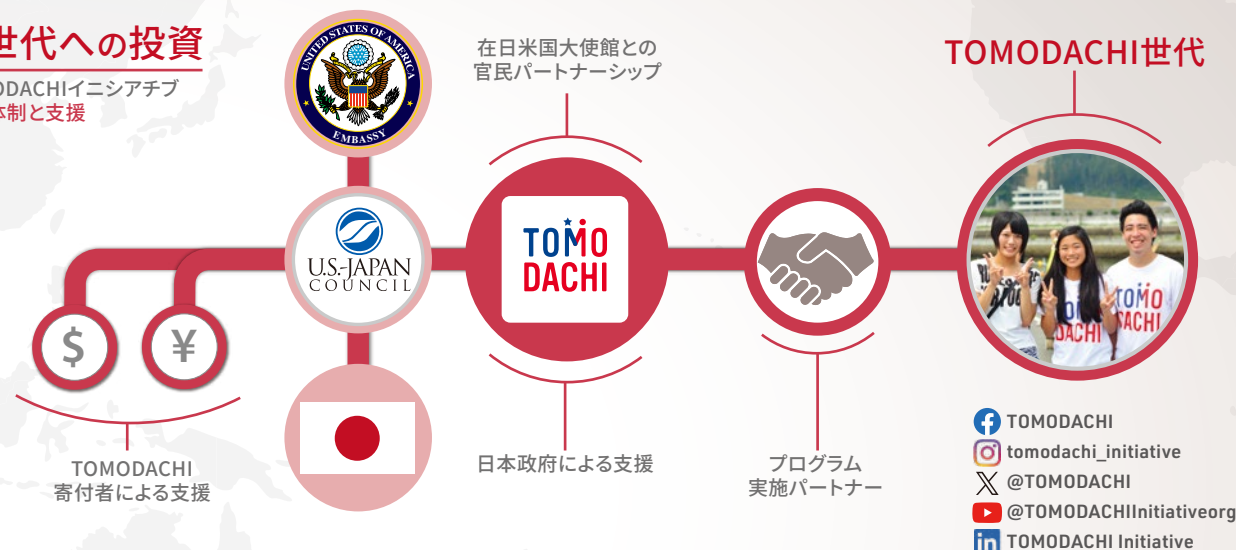


■ TOMODACHIイニシアチブについて

東日本大震災後の復興支援から生まれ、教育、文化交流、リーダーシップといったプログラムを通して、日米の次世代のリーダーの育成を目指す米日カウンシルと在日米国大使館が主導する官民パートナーシップで、日本国政府の支援も受けています。日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、より協力的で繁栄した安全な世界への貢献と、そうした世界での成功に必要な、世界中で通用する技能と国際的な視点を備えた日米の若いリーダーである「TOMODACHI世代」の育成を目指しています。詳細は、TOMODACHIイニシアチブのウェブサイト(www.tomodachi.org)をご覧ください。

次世代への投資

TOMODACHIイニシアチブ  
組織体制と支援



TOMODACHI J&J  
災害看護研修  
プログラム  
2023



TOMO  
DACHI

Johnson&Johnson



# TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラムとは？

医療面のケアだけでなく、人に寄り添う看護従事者を育成します。

本プログラムでは、看護学生が約半年間の研修を通じて災害看護のスキルと知識を習得し、将来の災害看護分野のリーダーとして、日本の災害看護を強化し貢献することを目指しています。

## プログラム2つの特徴

### 災害看護のプロがメンターに

医療従事者として、専門的な観点から学生の学びをサポートします。

※2023年度メンター 岩本 萌（東北大学大学院 医学系研究科）  
前中 夕紀（宝塚大学 看護学部）

### 卒業後は「アラムナイ」として続く学び

イベントやプログラムに参加することができ、仲間との交流や学び続けられる環境を提供します。

※「アラムナイ」とはプログラム卒業生のことを指します。

## Step1 事前研修

- 5月 オリエンテーション
- 6月 事前研修① 仙台
- 7月 事前研修② オンライン

米国研修に備えて、日本の災害看護の基礎を学びます。東日本大震災での被災、および災害対応経験のある看護師や語り部からの話を通じて、日本の災害に対する理解を深めていきます。また、日本とアメリカの災害看護の違いを予習します。



## Step2 米国研修

### ○ 8月 米国研修

2週間にわたる米国研修では、災害医療や看護を専門とする病院や学校等を訪問し、米国のコミュニティが災害から復興するプロセスを具体的な事例を通じて学びます。また、トリアージ研修や避難所訓練などの演習も行い、緊急時の対応をシミュレーションします。さらに、患者への適切な対応だけでなく、看護師自身のストレス軽減技術やマインドフルネスについても学習し、緊急事態時の対応力を高めていきます。



### 米国研修のコーディネーター

チルドレンズ・ナショナル・ヘルス・システム

講師

サラ・パーチ  
(DNP, APRN, CPNP-PC)

講師

ケリー・ウィリアムス  
(MSN, RN, CEN, CPN, CPEN, NPD-BC, CNE, TCRN)

## Step3 事後研修

- 9月 事後研修 兵庫
- 10月 プロジェクト
- 12月 最終報告会 オンライン

避難所の設営・運営や災害支援について学び、防災・減災について考えを深めていきます。また、「明日もし被災者になったら？」をテーマにしたプロジェクトイベントや最終報告会において、米国研修で習得した知識やスキルを実践に活かし、アウトプットの方法を模索します。看護領域でのリーダーシップを発揮し、他の人を巻き込みながら成長し、活躍する人材へと成長を促します。



### 藤井 千夏さん（医療創生大学）

「今の私にできることは何か」と改めて考え、米国研修を通じて日本の災害看護の課題に取り組む意欲が高まりました。

### 江島 つばささん（聖路加国際大学）

語り部の方のお話を聞いて、災害看護では身体的なケアと同様にこころのケアも必要なのだと実感しました。



### 熊谷 茉莉さん（福島県立医科大学）

リーダーは必ずしも特別な人だけになれるものではなく、誰でも挑戦することができるということを学びました。



### 寶門 大介さん（宝塚大学）

看護師のメンタルヘルスケアの話を聞き、緊急時に相談できる関係を構築しておくことの大切さに気づきました。日頃からできることを積極的に取り入れていきたいです。

### 木村 菜音さん（横浜市立大学）

看護師自身を守れてこそ患者のために貢献できるのだと学び、災害時の倫理観について新たな視点を得られました。一人で抱え込まないような環境づくり、チームづくりを意識していきたいです。



### 縄野 晴香さん（聖路加国際大学）

本番を想定した演習は、非常に緊張感がありました。緊急時でも冷静に適切な対応をしていくためには、知識や技術の向上が必要だと痛感しました。



### 米山 真優さん（東京医科大学）

災害リスクや減災の重要性について「災害看護を学ぶ私たちが積極的に広めていきたい」と考えるようになりました。

### 古川 真帆さん（東京医科歯科大学）

プロジェクトを通して、防災・減災の手段のひとつである避難バッグの必要性を伝えることができました。学びを還元できたことに達成感を感じました。



### 石津 舞桜さん（高知県立大学）

素晴らしい仲間との出会いは宝物です。ともに学びをアウトプットすることで、災害看護に関する知識と技術がより深まりました。

